

1. 科目名 (単位 数)	心理学研究法演習 I (2 単位)		
2. 授業担当教員	家近 早苗、緒方 二郎、鎌田 依里、加藤 宏一、後藤 進吾、齋藤 瞳、鈴木 克也、野口 理英子、他 *指導教員を一人選び、論文作成のための指導を受ける授業です	3. 科目番号	SPMP3370 PSMP3370
4. 授業形態	演習 (一部講義)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	心理学の基礎・応用分野における講義にて学習した内容を踏まえながら、心理学における主要文献の講読を行うとともに、文献内における重要ポイントを読み解き、他者に説明する力を身につける。この基礎として、学生自身が心理学の関連文献を検索することも学習の課題とする。さらに、各文献内における問題点を見つけ出し、どの様な心理学的研究を行うことによって、その問題を解決することができるのかを考察する。演習形式により、最終的には、心理学研究における課題発見から研究計画までの流れを理解する。		
8. 学習目標	研究論文を作成するための文献研究を中心に学習し、自らの課題を発見し、研究計画を立てる。詳細については、担当教員が授業の中で提示する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員が授業の中で提示する。		
10. 教科書・参考 書・教材	担当教員が授業の中で提示する。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 研究論文を作成するための文献研究ができる 2. 文献研究の結果を元に、研究テーマを発見することができる 3. 研究計画を立てることができる ○評定の方法 学則で決められた単位取得の条件を満たしていること(3/4 以上の出席)を前提として、担当教員の課した課題(先行研究レビューのレポート、卒業論文のための研究計画書等)の提出(100%)をもって成績を評価する。		
12. 受講生への メッセージ	担当教員が授業の中で提示する。		
13. オフィスアワー	担当教員が授業の中で提示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
	担当教員	授業内容	
	家近 早苗	【授業概要】学校心理学を基盤として、学校での子ども、教師、保護者への支援についてこれまでの研究や実践について論文や文献を通して学びます。また、これまでの研究から、量的研究と質的研究について整理し、研究に適した分析方法とは何かを学びます。 【研究領域】学校心理学・学校臨床・チーム援助 【受講者へのメッセージ】大学での学びと自分の研究への興味や疑問を大切にしながら、自分の研究の問いを見つけ、それを明らかにすることを目指してほしいと思います。研究は、苦しくもありますが楽しいものでもありますので、学習を通してそれを伝えたいと思います。 【オフィスアワー】 第一回講義にてお知らせします。	
	緒方 二郎	【授業概要】興味・関心のあるテーマの文献を適切な方法によって収集し、精緻な文章によってまとめ、レポートを作成し、集団でディスカッションを行う。興味・関心のあるテーマが、過去どのように研究が行われてきたのか、そして現在どのように研究がされているのか、さらに将来どのように研究が展開していくのかを概観するとともに、理解した事柄を自分の言葉で表現できるようになることを課題とする。その上で、自身の研究におけるテーマを見つけ、実現可能な研究計画を立てることを目標とする。 【研究領域】臨床心理学、臨床動作学、人の動作を用いた実験研究 【受講者へのメッセージ】受講人数にもよりますが、発表頻度は多いです。文献検索、レジュメ作成、発表、ディスカッションなどやるべきことが膨大なので、自分で主体的に考え、行動することを意識してください。受講生同士独りよがりではなく、お互いを支え合い、高めあうことも求めます。 【オフィスアワー】 第1回講義でお知らせします。	
	鎌田 依里	【授業概要】慢性の病い/障がい/不治の病いを有して生きる人やその家族、支援者のこころ、力動的心理学に興味がある方はご相談ください。「語り」を大事にする質的研究を中心に進めます。受講生の問題意識にそって今後の研究の方向性を検討します。 【研究領域】医療心理学、身体疾患を抱えて生きる人の心理、臨床心理学 【受講者へのメッセージ】人は誰でも病気になったり、障害を抱えて生きることになったりする可能性を抱えています。ひとのこころを丁寧に扱うことができるように、具体的に学んでいきましょう。 【オフィスアワー】 別途連絡します。	
	加藤 宏一	【授業目的】認知心理学または学習心理学の研究領域について学習します。また、こうした領域で実際に研究を行うために必要な実験心理学的手法やデータ分析法について学びます。 【授業方法】認知心理学または学習心理学の様々な研究領域の中から興味のある書籍や論文を読み、レジュメ(要約)を作成してもらいます。また、周囲の人々を対象に簡単な実験を行い、演習を通して、研究計画の設定、データ解析、小レポート作成などを体験します。 【授業目標】研究計画の設定。文献購読を通して発見した課題を、実験的手法を用いて検証するための研究計画書の作成を目標とします。 【研究領域】認知心理学または学習心理学の領域における実験的手法を用いた研究。(私自身は、感情と記憶、記憶の符号化(覚えること)と検索(思い出すこと)のメカニズム、メタ認知、忘却などのテーマに特に興味を持っています。)	

	<p>【受講者へのメッセージ】まずは、いろいろな文献を読み、興味を持てるテーマを発見してください。そして、授業外でも自ら積極的に学習し、研究の楽しさ・難しさを知ってもらいたいと思います。文献購読に基づいて設定した仮説を客観的データによって検証するという科学研究の一連の流れを理解すること、卒業研究に必要なスキルを獲得することを目指します。</p> <p>【オフィスアワー】 授業にて通知する。</p>
<p>後藤 進吾</p>	<p>【授業概要】自身の興味関心のあるテーマが、心理学の領域でどのように研究されているのかを、書籍や論文を読み解き、知識として収集することから始めていきます。主に受講者が書籍や論文、気になりごとについてまとめ、それについてディスカッションをすることで理解を深め、卒業論文作成の基礎となる部分を固めていきます。</p> <p>【研究領域】臨床心理学、臨床動作学</p> <p>【受講者へのメッセージ】受講者には、毎週文献を読んだ上でレジュメを作成し、必ず発表をしてもらいます。また文献購読を通じて、受講者には自身の得意不得意について内省を深めることを期待します。そのため、毎週自分自身に課題をもって取り組むことが難しい方の受講はお勧めしません。また、これまでの履修科目で習っていることは理解しているという前提で課題を課します。もし本科目を受講する場合は、これまでの講義で習ったこと（主に心理統計学や心理学実験）の復習をしておいてください。開講曜日や時間に関しては、受講生と担当教員の間で面談をした上で決定しますので、受講を希望する場合は、必ず後藤 (shgoto@ed.tokyo-fukushi.ac.jp) までご連絡ください。</p> <p>【オフィスアワー】 初回の授業でお伝えします。</p>
<p>齋藤 瞳</p>	<p>【授業概要】心身医学や臨床心理学に関連した学術論文を講読し討論を行うことにより、研究論文の読み方、研究デザイン、研究方法に関する基礎知識を得る。その中で、自らの関心を絞り、学術的に新しい知見をもつオリジナルな論文作成を目指し、研究計画の立案を行う。</p> <p>【研究領域】心身医学、臨床心理学</p> <p>【受講生へのメッセージ】研究をする上で重要となる客観性や論理性は、日常生活における問題解決能力や自己管理能力につながります。授業で学んだことを日常生活にも応用し役立てることを目指しましょう。</p> <p>【オフィスアワー】 初回授業でお知らせします。</p>
<p>鈴木 克也</p>	<p>【授業概要】受講生が興味を持っている領域の専門書や研究論文をまとめて発表していくかたちで授業を進めます。専門書や研究論文をじっくり読む体験を通じて、自分が専門にしたい領域の知識や研究方法が少しずつ自分のなかに蓄積されていくことを実感していただきたいと考えています。</p> <p>【研究領域】臨床心理学、保育施設における保護者支援</p> <p>【受講者へのメッセージ】卒業研究に取り組むためには、自ら進んで学ぶことが必要になります。それは決して楽なことではありませんが、とても大切なことです。「心理学研究法演習Ⅰ」を通じて、その第一歩を踏み出していただきたいと思っています。</p> <p>【オフィスアワー】 別途連絡します。</p>
<p>野口 理英子</p>	<p>【授業概要】臨床心理学の研究について学びます。具体的には、各自が選んだテーマに関する専門書や学術論文を読み、まとめ、発表します。発表と討議を中心に進め、卒業研究のテーマを絞り、研究計画書を作成します。</p> <p>【研究領域】臨床心理学、認知行動療法</p> <p>【受講者へのメッセージ】これまでに受講してきた授業で触れたこと、日常生活で経験したことなどから、関心のあることをみつけて下さい。そのテーマについて論理的に考え、分析し、まとめていくことが目標です。</p> <p>【オフィスアワー】 別途通知します。</p>